



2025年9月1日

報道関係者各位

慶應義塾大学

慶應義塾大学アート・センター主催 展覧会
「SHOW-CASE PROJECT Extra-2 富井大裕 接点の都合」展開催
(2025.10.14~2025.12.19)

慶應義塾大学アート・センターでは、若い世代が学ぶ大学という場でこそ、現代という同時代を生きるアーティストたちの作品と出会い、多様な視点に触れる機会を作ることが重要と考え、現代美術展を実施しています。

昨年度より新たな試みとして、既成品を用い独自の眼差しでその新たな側面を見出す作品で知られている美術家・富井大裕と3年連続の展示プロジェクトを始動しました。富井らしい既製品を用いた作品と、石膏作品の対置を果たした第1回展を踏まえた第2回展は、「接点の都合」と題されました。小さな展示室から発信される、新しい「出来事」への挑戦をご覧ください。

1. 基本情報

- 会 期： 2025年10月14日(火)～2025年12月19日(金)
土日祝休館 ただし10月25日(土)、11月15日(土)は開館
10月27日(月)、11月17日(月)は休館
- 開館時間： 11:00～18:00
- 会 場： 慶應義塾大学アート・センター（三田キャンパス南別館1階アート・スペース）
- 入 場： 無料
- 主 催： 慶應義塾大学アート・センター
- W E B： http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/with_motohiro_tomii_2025-2/

※ 最新情報は上記、展覧会ウェブサイトをご確認ください。

2. 展覧会概要

慶應義塾大学アート・センターでは、若い世代が学ぶ大学という場でこそ、現代という同時代を生きるアーティストたちの作品と出会い、多様な視点に触れる機会を作ることが重要と考え、現代美術展を企画してきました。昨年度より新たな試みとして、既成品を用い独自の眼差しでその新たな側面を見出す作品で知られている美術家・富井大裕と3年連続の展示プロジェクトを始動しました。富井らしい既製品を用いた作品と、石膏作品の対置を果たした第1回展を踏まえた第2回展は、「接点の都合」と題されました。小さな展示室から発信される、新しい「出来事」への挑戦をご覧ください。

展覧会は時間と場所が区切られている「出来事」です。通常は一期一会的に成り立つもので、それが展覧会の魅力でもあります。その「出来事」を3年の連続形で考えることによってどのような展開が可能なのか、小さな展示室から新しい「出来事」の挑戦を発信します。

昨年からは始まった3年にわたるこの「SHOW-CASE PROJECT Extra」の第1回は、「モノコトの姿」と題して、富井らしい既成品を用いた作品と、石膏の造形が並置／対比されました。これに対し、

「接点の都合」と題された今回は、いかなる展開となるでしょうか。この3回の展示を通して、展示空間と作品の関係、展覧会という枠組みそのものを問いかけ、通常は「出来事」として、基本的に単発で発生する展覧会が連続したときに立ち現れるある種の空間性など、この変則的な試みの中で生じる様々な事象や感得できることを企画者、アーティストが共に、そして観客の皆さまと味わい、考えていきたいと思います。ぜひ、会場でアーティストの挑戦をご覧ください。

【SHOW-CASE PROJECT】 <http://www.art-c.keio.ac.jp/research/research-projects/show-case-project/>

作家によるステートメント

何かと何かがつながって何かになる。この流れ全体がかたちでありモノコトの姿だと思うが、そこで気になるのは「つながり」の根拠だ。何がつながるのか、何をつなげるのか、どこをつなげるのか、どのようにつながるのか、つなげたいのか、つなげざるを得ないのか、などなど。考えるだけで幾つもの関係が湧き、形は溢れかえる。と、ここまでは、つなげる私・つながるモノコトの都合である。接点の都合というのはあるのだろうか。接点が私を動かし、モノコトを選び、あり方や関係を変える。接点に全てが転がされる世界。

そんなことを制作から考えようとしても、結局はこちらの都合に寄って（寄せて）しまう危うさもあるが、可能な限り接点に振り回されてみよう。それを造形と呼んでもいいんじゃないか。

富井大裕

3. 作家プロフィール

富井大裕（とみい もとひろ）

1973年新潟県生まれ。武蔵野美術大学大学院造形研究科彫刻コース修了。活動初期の石膏による小さな人型の作品を経て、スーパーボール、クリップ、鉛筆、ハンマーなど、多種多様な既製品を用いて立体作品を構築する作品スタイルへと移行。並べる、重ねる、束ねる、折り曲げるといったシンプルな手法によって、既製品を本来の意味や機能から解放し、彫刻の新たなあり方を探求し続けている。X（旧 Twitter）にて毎日発表される「今日の彫刻」などと併せ、既存の展示空間や制度を批判的に考察する活動も行う。主な展覧会に「横浜トリエンナーレ 2011 OUR MAGIC HOUR 世界はどこまで知ることができるか？」（横浜美術館／日本郵船海岸通倉庫、2011年）、「MOT アニュアル 2011 Nearest Faraway | 世界の深さのはかり方」（東京都現代美術館、2011年）、「アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋-日本と韓国の作家たち」（国立新美術館、東京／韓国国立現代美術館、ソウル）、「Re construction 再構築」（練馬区立美術館、2020年）など。2023年には個展「みるための時間」（新潟市美術館）、「今日の彫刻」（栃木県立美術館）を開催。現在、武蔵野美術大学教授。

【個人ウェブサイト】 <http://tomiiimotohiro.com>

4. 広報画像

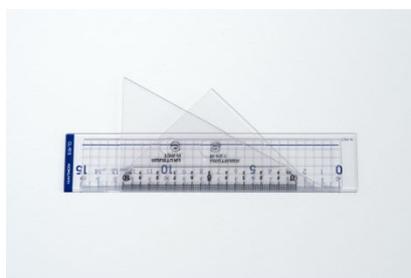
- a. 富井大裕 《measure》2009 メジャー（参考作品）
撮影：柳場大 ©Motohiro Tomii, Courtesy of Yumiko Chiba Associates
- b. 富井大裕 《four rulers》2010 定規（参考作品）
撮影：柳場大 ©Motohiro Tomii, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

- c. 富井大裕 左《CR1507》2015 段ボール、接着剤、ハトメ（参考作品） 右《CR1506》2015 段ボール、接着剤、ハトメ（参考作品） 撮影：柳場大 ©Motohiro Tomii, Courtesy of Yumiko Chiba Associates
- d. 「SHOW-CASE PROJECT Extra-1 富井大裕 モノコトの姿」展示風景 撮影：柳場大 ©Motohiro Tomii, Courtesy of Yumiko Chiba Associates
- e. 「SHOW-CASE PROJECT Extra-1 富井大裕 モノコトの姿」展示風景 撮影：柳場大 ©Motohiro Tomii, Courtesy of Yumiko Chiba Associates
- f. 「SHOW-CASE PROJECT Extra-1 富井大裕 モノコトの姿」展示風景 撮影：柳場大 ©Motohiro Tomii, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

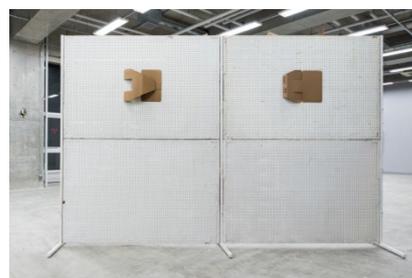
※ 画像を利用する際には、クレジットをお付けください。



a.



b.



c.



d.



e.



f.

5. 関連イベント

ワークショップ

日 時： 2025年10月25日（土）14:00より

講 師： 富井大裕

※ 予定は予告なく変更されることがあります。

※ 詳細は展覧会ウェブサイトですら順次公開いたします。

http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/with_motohiro_tomii_2025-2/

トーク

日 時： 2025年11月15日（土）14:00-15:30

登壇者： 富井大裕

林卓行（東京藝術大学芸術学科教授）

梅津元（批評家／キュレーター）

林 卓行（はやし たかゆき）

美術批評、作品論。近年の寄稿に「既製品、拾得物、日用品——〈レディメイド〉あるいは「で

きあがった彫刻」たち」(富井・藤井・山本編『わからない彫刻:みる編』、武蔵野美術大学出版局、2024年)。翻訳にゴームリー+ゲイフォード『彫刻の歴史』(石崎尚との共訳、東京書籍、2021年)。

梅津 元 (うめづ げん)

批評家/キュレーター。近年の企画:「くうつること」と「見えること」—映像表現をさぐる:60年代から現在へ」大阪市中央公会堂 (ART OSAKA, 2025年)、「樋口朋之 DUB/stance」The White (2024年)。埼玉県立近代美術館学芸員 (1991-2021年)として「ドナルド・ジャッド 1960-1991」(1999年)などを企画。同館の「NEW VISION SAITAMA III」(2009年)に富井大裕を選出。

6. 会場案内

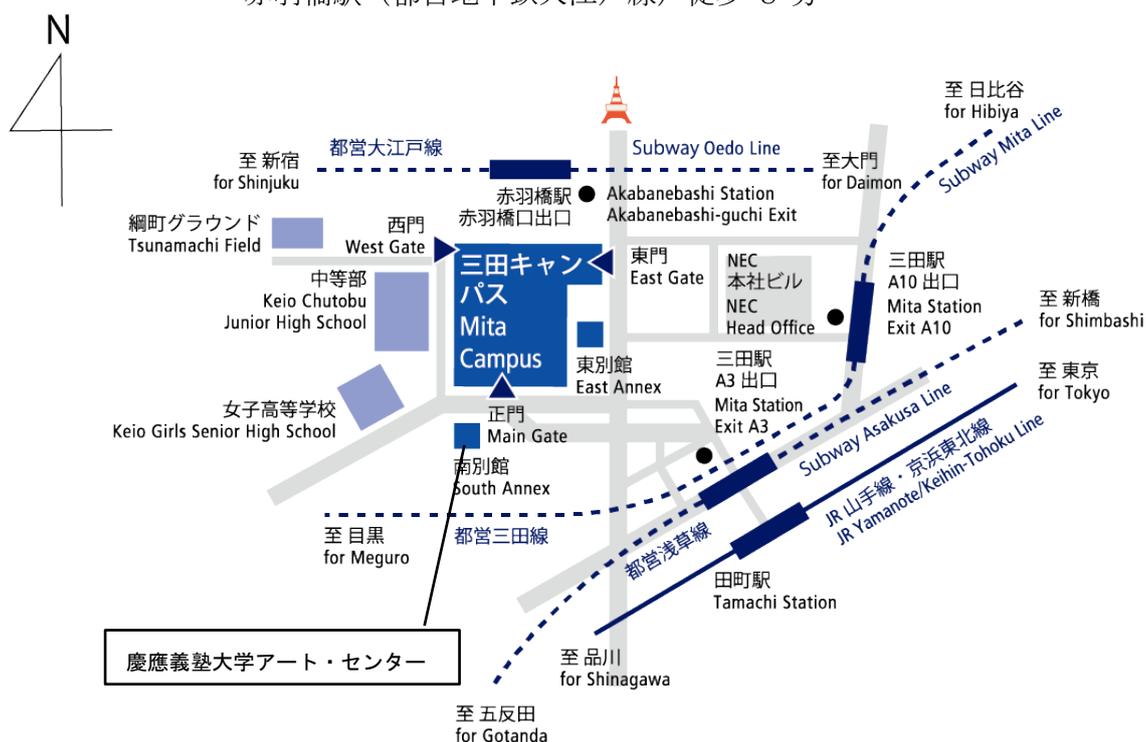
会場: 慶應義塾大学アート・センター (三田キャンパス南別館1階アート・スペース)

住所: 〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

交通アクセス: 田町駅 (JR山手線/JR京浜東北線) 徒歩8分

三田駅 (都営地下鉄浅草線/都営地下鉄三田線) 徒歩7分

赤羽橋駅 (都営地下鉄大江戸線) 徒歩8分



※ ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※ 本リリースは文部科学記者会、各社社会部、文化部等に送信させていただいております。

【本発表資料のお問い合わせ先】

慶應義塾広報室担当: 道祖土 (さいど)・向坂 (さぎさか)

TEL: 03-5427-1541 FAX: 03-5441-7640

E-mail: m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/>